

統合医療に使われる クマイ笹エキス

循環多段式加圧抽出法により生まれたクマイ笹エキス「AHS」は、医療現場でも確実な成果をあげています。その一つが、札幌市の平田章二口腔顎顔面外科の平田章二院長が取り組んでいる免疫化学療法です。

平田医師の療法は「AHS」によってからだの免疫力を高め、低用量の抗がん剤でがん細胞をたたく」というもの。その成果は平成十四年十一月に金沢市で開催された

第5回日本補完代替医療学会でも発表され、大きな反響を呼びました。

これまで、西洋医学で使われる抗がん剤と、代替医療で使われる機能性食品を併用して臨床データをとる研究はほとんどないのが現状でした。そんななかで

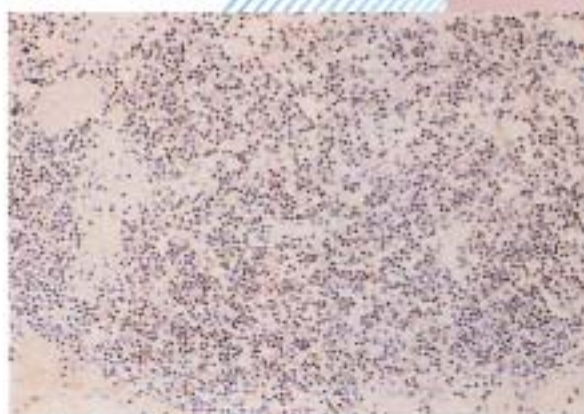
平田医師の研究が注目されています。

具体的には、AHSを中心に代替医療単独で治療した舌がん患者と、AHSと通常の十分の一の量の抗がん剤と免疫強化剤（OK-432）を併用した舌がん患者との免疫反応を病理組織学的に比較。その結果、特徴的なことがわかりました。

AHSだけでも全身の免疫力は高くなるものの、がん細胞の近くでは免疫応答は低い状態でした。これに対してAHSと

低用量の抗がん剤を併用したケースは、がん細胞の周りにも免疫細胞が集中していることが確認され、あきらかな抗腫瘍効果が見られる症例が多く認められたのです。

- ↑ がん患部周辺では細胞障害性T細胞が激減している
- ← AHSと抗がん剤によりT細胞が増え、がん細胞を排除する



こうして循環多段式加圧抽出法から生まれた機能性食品が、西洋医学とドッキングして「統合医学」の可能性を広げています。平田医師も「AHSによって私が理想とする免疫化学療法が実現しつつあります」と期待を寄せておられます。



平田章二医師